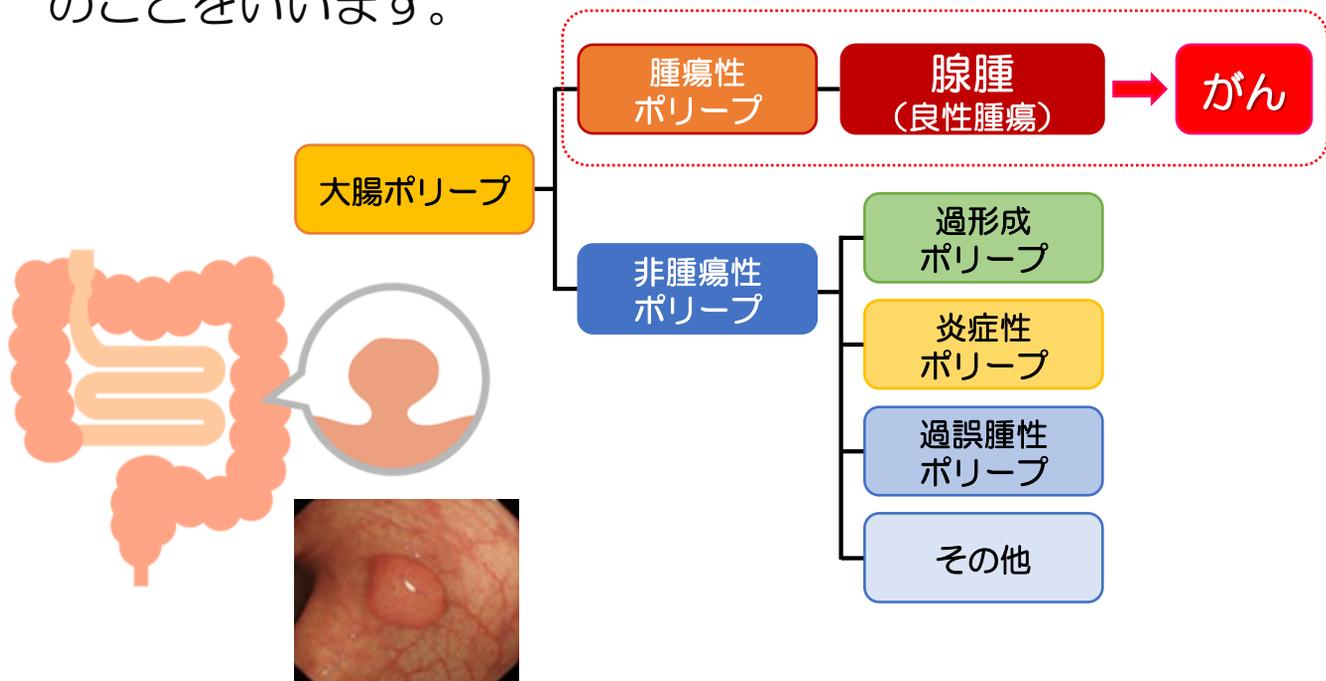


大腸ポリープについて

大腸ポリープとは、大腸の管の中にできた「できもの」のことをいいます。



大腸ポリープは、大きく2つに分けられます。

- ① 「腺腫」といって「がん」になる可能性のあるポリープ（腫瘍性ポリープ）
- ② 「過形成性ポリープ」や「炎症性ポリープ」といった「がん」にならないポリープ（非腫瘍性ポリープ）

腺腫は“がんの芽”と考えることができます。小さいうちは良性だった腺腫が時間とともに徐々に大きくなると、「がん」化する可能性が高くなってきます。

ある程度大きいポリープ（5mm以上が目安*）は、「がん」化している可能性があるため、切除が必要です。良性のポリープや、ごく浅い段階の早期大腸がんであれば、内視鏡で切除して治すことができます。

（ポリープの一部が癌化している確率 5mm：0.5%、6-9mm：3.3%、1cm以上：30%）

【注意】大腸ポリープはほとんどの場合、患者さんが自覚する症状がありません。とくに、小さいポリープの場合は、すべて無症状といっても過言ではありません。検査をしっかりと受けていただくことが「大腸がん」の予防につながります。